

石川県立美術館だより

平成14年1月1日発行 第219号



馬に凭るB) 高光一也 昭和55年 当館蔵

没後15年 高光一也展

1月4日(金)～27日(日) 会期中無休
午前9時30分～午後5時 入館は午後4時30分まで)

目次

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 没後15年 高光一也展.....2 | 美術館小史・余話(18) 図書閲覧室NOW ...6 |
| 利家と末森の合戦3 | ミュージアム・コンサート、各地の展覧会 ...7 |
| 名刀と槍、一輸出の華ー 明治の工芸4 | 美術館の本、一月の行事案内他7 |
| 常設展示室 主な展示作品.....5 | 所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...8 |
| 音声ガイドサービス開始!! 6 | |

ホームページアドレス <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

没後15年 高光一也展

1月4日(金)~27日(日)会期中無休

主催 / 石川県立美術館

共催 / (財)石川県美術文化協会・北國新聞社



高光一也氏



イベジ像

昭和六十一年十一月に高光一也氏が急逝されて、早くも十五年という歳月が過ぎました。現代の日本女性を中近東や古代ギリシャ・ローマの遺跡の中にたたくませ、時空を越えた普遍的な女性美を唄いあげる高光氏の芸術は、今もなお変わらぬ魅力を発し、心地よい感動へと誘い続けてくれます。この没後十五年の節目に際し、高光氏の作品と氏の創作の源泉をうかがわせる遺愛の品々とを一堂に会し、『没後15年 高光一也展』を開催いたします。

高光一也氏は昭和の石川の美術界を代表し、その優れた資質と飽くなき研鑽、類い希な探求心とにより、戦後日本の洋画壇を代表する画家の一人として活躍されました。具象・抽象と振幅の度合いの大きいこの時代にあつて、追い求めたものは、健全なる女性美であり、女性像はいずれも明朗で、生き生きとした生命力に満ちあふれています。

また高光氏は、金沢美術工芸大学教授、石川県美術文化協会理事長、同顧問、石川県美術文化振興協議会委員などを歴任され、本県の美術教育や文化振興において大きな足跡を残されました。芸術の創造、教育、普及と、その存在はまさにかけがえのないものでした。当館は昭和五十八年に、規模を拡張して新たに開館いたしました。その際には、百余点もの作品を寄贈していただき、コレクションの充実に多大なるご尽力を賜りました。本展はこの寄贈作品を中心に、各機関や個人で所蔵される名品を加え、油彩・素描七十点、さらに高光氏のアフリカ彫刻のコレクションをはじめとする、遺愛の品々約四十点を合わせて展示いたします。画家の思いに触れていただき、より深い鑑賞へつながればと願うものです。

高光一也氏略年譜

| | |
|------|--|
| 明治40 | 1月4日、現金沢市北間町イ50に、真宗大谷派専称寺住職高光大船の長男として生まれる。 |
| 大正14 | 石川県立工業学校図案絵画科卒業。 |
| 昭和4 | 暁烏敏の紹介で中村研一に師事。 |
| 昭和7 | 第13回帝展「兎の静物」初入選。画業一途を決意し小学校訓導を辞し、父大船の後をつぐ。 |
| 昭和12 | 第1回新文展「薫積む頃」特選。 |
| 昭和16 | 陸軍報道班員としてインドシナ半島に派遣。 |
| 昭和20 | (財)石川県美術文化協会設立、理事に就く。第1回現代美術展(石川県)開催。 |
| 昭和21 | 金沢美術工芸専門学校(現金沢美術工芸大学)開校。創設に参加、翌年講師。 |
| 昭和22 | 第3回日展「みなみを想ふ」特選。 |
| 昭和29 | 欧州へ留学。30年夏に帰国。 |
| 昭和30 | 金沢美術工芸大学教授。(44年名誉教授) |
| 昭和46 | 「緑の服」等で日本芸術院賞受賞。 |
| 昭和51 | 「高光一也人物画五十年展」開催。MROホール他。 |
| 昭和54 | 日本芸術院会員推挙。 |
| 昭和61 | 文化功労者に選ばれる。11月12日逝去(79歳)。 |



緑の服 昭和45年 日本芸術院蔵



南を想つ 昭和22年 金沢市立浅野小学校蔵



子供と裸婦 昭和30年 当館蔵



菩提樹の下で 昭和51年 北陸放送蔵

講演会 聴講無料

演題 「親父と私」
 講師 高光一生氏(陶芸家)
 日時 1月13日(日)午後1時30分~
 会場 当館ホール

| | | |
|------|------|-----------|
| 一般 | 600円 | 個人 |
| 大学生 | 400円 | |
| 高中小生 | 200円 | |
| 一般 | 500円 | 団体(20名以上) |
| 大学生 | 300円 | |
| 高中小生 | 100円 | |

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になります。

常設展示室(前田育徳会展示室)

特別陳列

NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

利家と末森の合戦

1月4日(金)~27日(日)

天正十二年(一五八四)九月九日から十一日にかけての末森城をめぐる佐々成政と前田利家の戦いは、大阪城を築き天下統一をめざす羽柴(豊臣)秀吉に、徳川家康が、織田信長の次男(北畠)信雄と結んで対抗した小牧・長久手の合戦に呼応して戦われたものであり、また前田家にとっては浮沈を決めた合戦として位置づけられ、大変重要視されてきました。そして、(財)前田育徳会には、この合戦を描いた上・中・下三巻からなる絵巻が所蔵されています。

この絵巻は、一般的には「末森合戦図絵巻」と呼ばれていますが、表題は「末森赴援画巻」とあり、前田家十五代の侯爵利嗣の手によって、明治三十年(一八九七)から約七年の月日を費やして製作されたもので、三巻の奥書には、絵は土佐派の画家川邊御楯、詞書は東宮侍講御歌所寄人であった本居豊頼が担当したことが記されています。また、付随するものとして「末森画巻備考」「乾坤二冊」「末森画巻詞書」「末森戦役一覽要図」等があり、これらから、詞書の原案は当時の漢字者永山近彰が作成したことがわかります。近彰の作成した目録によると

- 上巻
1. 佐々成政出陣田島兵衛嚮導図
 2. 末森城打撃図
 3. 前田利家卿環甲啓行図
 4. 利家卿単騎赴津幡図
- 中巻
5. 農夫半右衛門張疑兵図
 6. 津幡城議軍略図
 7. 篠原一孝追及図
 8. 富田重政斥候図
 9. 今浜掲牙旗図

- 下巻
10. 村井不破二師破敵図
 11. 利家卿入城賞諸將図
 12. 成政本営金旗映日図
 13. 長連龍来会図
 14. 金沢凱旋民庶拝観図
- の計十四場面からなる絵巻として構想されたことがわかります。(今回は上巻のみ展示)

この他、育徳会にはこの合戦に係るものとして、この時、実際に使用された「金小札白糸素懸胸丸具足」(重要文化財)、夫人まつ(芳春院)自ら刺繍した「鍾馗陣羽織」(重要文化財)、狩野永徳筆と伝えられる「鍾馗馬幟」(重要文化財)、「馬聯大・小」、「太刀(銘吉平)」、「石目筒」、奥村永福夫人が使用した「薙刀」や、後世に作成されたものとして「末森城模型」(元禄頃兵学者が作製)、「末森記」(岡本慶雲編集)、明治に入って前田家の依頼によって描かれた「利家末森啓行図」(川邊御楯筆)、「利家末森城之救援図」(村田丹陵筆)、「末森陣之図」(島崎柳塙筆)、岸浪柳溪によって模写された「鍾馗幟」、奥村家によって複製された「馬聯大・小」等が所蔵されています。

この展示は、NHK大河ドラマ「利家とまつ」加賀百万石物語」放映開始に協賛し、前田家の加越能三国領有の端緒となり、また日本の戦役史上に特記される《末森の合戦》を、前田家に残されたこれらの文化財資料など十六点によって再見することを目的に開催するものです。(太字は今回展示予定のもの)



末森記(部分)

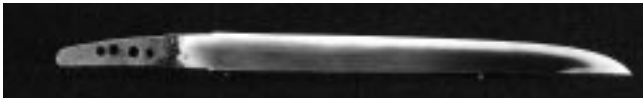
常設展示室 第2展示室)

特集

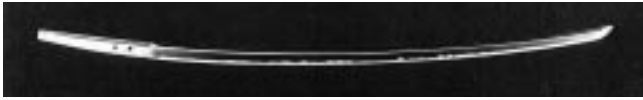
NHK大河ドラマ「利家とまつ」放映協賛

名刀と槍

1月4日(金)~27日(日)



短刀 無銘正宗



太刀 銘一 景安



十文字槍 銘加州住伊勢大塚藤原兼重



槍 両鑄造 銘加州住藤嶋友重 藤嶋友重

本展は、当館所蔵品と寄託品の中から、刀剣十九点と槍八点、計二十七点を展示します。

刀剣は、本紙二一〇号で紹介しました大友惠美子様からご寄付いただきました刀剣を中心にしたグループと、赤羽刀との二部構成とします。

第一のグループでは、「太刀 銘一」(景安作)、「短刀 無銘正宗」(正宗作)、「短刀 銘国光」(新藤五国光作)、「短刀 無銘義弘」(郷義弘作)等が含まれます。短刀三点は、鎌倉、南北朝時代のもので、いずれも前田家伝来の優品です。

赤羽刀は、第二次世界大戦後、連合国占領軍によって接収されていた刀剣類が、平成十一年に国から各自治体へ譲与されたものです。当館でも加州刀を中心に七十点の譲与を受け、研磨等の整備を行っています。今回第一次の整備が終了した、「太刀 銘家次」(室町時代)、「刀 銘賀州住兼若」(江戸時代)、「脇指 銘藤嶋友重」(室町時代)等十一点を展示します。

当館では、江戸時代の加州物を中心とした槍を四十四本所蔵していますが、今回は大身の槍の両鑄造、平三角造各一本、短い両鑄造、平三角造各一本と十文字槍二本、笹穂形の槍二本を展示しますので、槍の形のおもしろさもお覧いただけると思います。

重要美術品

日本の近代の扉を開いた明治維新は、政治経済のみならず文化面でも大変動をおこしました。工芸においてもその激動の嵐が吹くなか、新しい時代の求めに必ず努力を積極的に行うようになります。

既に日本の工芸作品は、欧米諸国から早くから強い関心を持たれていましたが、明治初期においては殖産興業の主要な柱として、政府もその振興のために、内国勸業博覧会の開催や学校あるいは研究機関の設立など、さまざまな奨励策を打ち立てています。その結果海外各地の博覧会に全国の工芸作家が競って出品を行い、それを契機に販路を開拓することに成功し、日本の輸出産業を支える大きな役割を果たしています。

それらの作品を現在の目で見れば、意匠の生硬さやあまりにも過剰と思える装飾が施されているものなど、技術の誇示に終始しているものも相当数見られます。ただし、時代の要請をしつかりと把握し、作り手の意気込みと高い技量、新しい意匠や形体を模索する真摯な努力が積み重なった作品も多くあり、近年明治期の工芸を再評価する動きが高まっています。

当館では、早くからその作業を進めており、明治時代から石川県が所蔵している陶磁・漆工・金工の三分野については、東京国立博物館や京都国立博物館所蔵作品と比べても遜色のない作品が多くあるところから、毎年この特集展示を行うことで、その魅力の紹介を続けているところです。

さて、今回の展示では制作年が明治時代の作品だけではなく、幕末から明治初期にかけての作家として、陶磁の永楽和全、漆工の米田孫六の作品と、明治から続く大正時代の陶磁作品として、石野竜山、初代徳田八十吉、初代中村秋塘らの作品をあわせて展示します。また、近代漆芸の大家柴田是真の類い希な画技を知ることのできる「漆絵画帖」とともに、現在整理中の明治期の図案も加えることで、明治の工芸作家とその作品の幅広い魅力のみならず、時代状況をも含めて、よりいっそう楽しんでいただくことを願っています。



漆絵画帖(一帖のうち) 柴田是真



金銀象嵌雪に鷹図香炉 八代水野源六

常設展示室 第5展示室)

特集

輸出の華

明治の工芸

1月4日(金)~27日(日)

常設展示室

主な展示作品

1月4日(金)~27日(日)

● = 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
 = 石川県指定文化財



虚飾 中村静勇



色絵布袋図平鉢 古九谷

前田育徳会展示室

NHK大河ドラマ「利家とまつ」 放映協賛

特別陳列 利家と末森の合戦

末森記

末森城模型

末森城赴援画卷(三巻の内上巻)

末森陣之図

利家末森啓行図

利家末森城之救援図

雑刀(天正十二年九月末森合戦ニ奥村永福夫人ノ使用セルモノ)

石目筒

鍾馗幟

岸浪柳溪

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雄香炉

第2展示室(古美術)

色絵布袋図平鉢

色絵鳳凰図平鉢

青手老松図平鉢

NHK大河ドラマ「利家とまつ」 放映協賛

特集 名刀と槍

太刀 銘一

短刀 銘国光

短刀 無銘義弘

槍 両鎬造 銘加州住藤嶋友重

十文字槍 銘加州住伊勢大塚藤原兼重

兼重

景安

新藤五国光

郷義弘

藤嶋友重

兼重

飛鳥哲雄

伊東 哲

金岩清隆

鴨居 玲

北濱 淳

庄田常章

中村静勇

宮本三郎

第3・4展示室(油彩画・彫塑・造形)

油彩画

口ココに想う

高原

群鶏

1982年 私

ベニスの壁

竜の八十八唄

虚飾

熱叢夢

彫塑・造形

古代への想い

青年像

軍鶏

第5展示室(工芸)

色絵金彩葡萄文花瓶

溜塗棚

青銅器「瑞鳥」

友禅赤茶地鶏落葉文訪問着「暁声」

遠州風彫刻桑材飾棚

特集 1 輸出の華 1 明治の工芸

色絵金彩海龍図遊環花瓶

赤絵金彩八珍果文蓋物

時絵楼閣山水図木目硯箱

時絵路に小鳥図額

鉄打出鳩置物

金銀象嵌花鳥人物文薄端

蓮池会考案図式

漆器陶器金属図案

第6展示室(日本画)

化粧

鷺娘

こと

春を待つ

夢想

四季花鳥図

紅白梅

先斗町

石田康夫

坂 坦道

長谷川八十

初代徳田八十吉

大場宗秀

板坂辰治

上野為二

初代池田作美

春名繁春

九谷陶器会社

大垣昌訓

柴田是真

山田宗美

銅器会社

相川松瑞

北野恒富

小林古径

滝川真人

百々俊雅

広田百豊

前田青邨

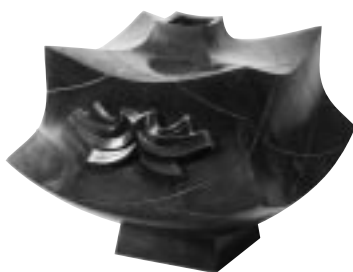
山本 隆

| | | |
|--------------|-----------|-----|
| 一般 350円 | 個 人 | 観覧料 |
| 大学生 280円 | | |
| 高校生以下は 無料 | | |
| 一般 280円 | 団体(20名以上) | |
| 大学生 220円 | | |
| 高校生以下は 無料 | | |

このページでは各展示室作品の主なものを掲載しています。(第1展示室は色絵雉香炉二点のみ。)



鷺娘 北野恒富



青銅器「瑞鳥」 板坂辰治



友禅赤茶地鶏落葉文訪問着「暁声」 上野為二



青年像 坂 坦道

音声ガイドサービス開始!!



常設展示室の展示作品を解説する音声ガイドのサービスを始めました。二階常設展示部門の前田育徳会展示室から第6展示室までの七室の概要と、そこで展示する主な作品や作家に関する解説を、日本語版と英語版の二種類用意しました。

展示された作品の横に記された番号をガイド機に入力して、イヤホーンを通して解説を聞くものです。まわりの人の迷惑になることもなく、何度でも繰り返し聞くことが出来ますので、作品の理解を深めるには最適なガイドといえましょう。

これまで、「展示されている作品の解説があったらな」とか「友人を案内したいけど、どう説明していいかわからない」と思っていた方、ぜひともご利用下さい。

音声ガイドの貸し出しは、二階常設展示室受付で行っていただけます。無料です。お気軽にご利用下さい。ただし台数に限りがありますので、団体での利用の際には、事前にご連絡下さい。

美術館小史・余話

18

嶋崎 丞すけ 当館館長

先号でマグシーバーガイド方式による解説活動について多少触れたが、いざ導入してみるとその作業が大変であった。どこの美術館や博物館でも、展示作業が完了するのは、大体オープンの前日であるのが一般的であり、私共の美術館でも全く同様である。従って展示作業終了後、観覧する順序通りに解説を録音し、それを編集して発信機にセットし終わるのが、いつもオープンの日の夜明けであった。その頃の美術館は、職員による宿直が勤務条件として課せられており、職員数が少なく、しかも男性は三名しかいなかった。三日おきに宿直当番が回ってくる。私はその宿直を専らこの解説と録音作業に当てることにしていたが、結局はいつも徹夜であった。そしてこの作業は、作品の展示替えを行うたびに実施しなければならぬ。これはえらいことを引き受けたと、つくづく思ったものだった。

こうした手造りによる解説活動も、前回触れたように、展示室が壁一枚で接している箇所は、両展示室の解説の磁波が入り交じって混信し、多くの利用者から不評を買う原因となった。それで一つの展示室では床の周囲にケーブル線を這わし、次の展示室では、天井裏にセットするなど、理工学の知識の全くない者が、夜中に天井裏へ上がっている工夫を凝らしてはみた。だが、どうしても改善することが出来ない。結果として五年足らずで廃止することになった。自分なりに一所懸命に努力した仕事であっただけに残念であった。しかし作品を見る眼を養い、解説をどのように行うかなど、その後の教育普及活動を実施していく上には、大いに役立ったことは事実であり、ある意味では非常に仕合わせであった。

図書閲覧室NOW 新着図書紹介

今回は、二冊の本をご紹介します。

まず、「名物裂 渡来織物への憧れ」(五島美術館編)です。名物裂とは、茶道の世界で掛物の表具や茶道具の袋に使われた、明時代を中心に中国から舶載された染織品を指し、室町時代以降、珍重されてきました。本展は、約二百点の貴重な名物裂を一堂に集め、その多彩な魅力を紹介しようとするものです。加賀藩前田家にも多くのすぐれた名物裂が伝わっており、その一端は、当館の前田育徳会展示室で、年に一、二度ご覧いただくことができます。本展には、前田育徳会所蔵のものは出品されていませんが、過去に前田家に伝来したと考えられる名物裂が散見され、藩主がいかにその蒐集に力を入れていたかがわかります。

二冊目は、「有田の名宝展」(有田の名宝展実行委員会編)です。佐賀県の有田地方には、肥前磁器に関する多くの博物館施設がありますが、その十五の施設が集まって、平成十二年「有田ミュージアムズ連絡会」が発足しました。この会は、相互の施設間の交流、情報交換を通じて、今後の生涯学習時代に向けて開かれた施設のあり方を模索し、学術文化の発展に寄与しようとするもので、本展もその活動のひとつといえます。各施設から、初期伊万里から現代までの代表的な肥前磁器が出品され、図録では、各施設の紹介とともに、それぞれ出品した作品のカラー図版と解説が掲載されています。

教育普及活動の開始(二)

* 開室時間は午前九時三十分〜午後四時三十分。貸出し、「バーサービスは行っておりません」

ホール

第7回ミュージアムコンサート

アンサンブル金沢メンバーによる室内楽
「弦楽の調べ」

日時 一月二十七日(日)午後一時三十分～

演奏者

第一ヴァイオリン

山野祐子、アンドレア・フェニヴジ

第二ヴァイオリン

江原千絵、大村俊介

ヴィオラ

ヤノーシユ・フェイエリヴァリ、原三千代

チェロ

早川寛

コントラバス

今野淳

プログラム(予定)

ロッシニ

弦楽のためのソナタ第一番、第三番

モーツァルト

デイヴェルティメント K136

パツヘルベル

カノン

レスピーギ

リ्यूートのための古代舞曲とアリア

入場の際して入場整理券が必要になります。詳細は前号をご覧ください。

〔応募先〕必ず往復葉書でお申し込み下さい(〒92010963 金沢市出羽町2-11)

石川県立美術館 ミュージアム・コンサート係

各地の展覧会

一月

開催日程 休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

時を超えて語るもの

―史料と美術の名作―

12/11～1/27

東京国立博物館(東京都台東区・〇三三 三八三二 一一二)

未完の世紀

―20世紀美術がのこすもの― 1/16～3/10

東京国立近代美術館(東京都千代田区・〇三三 三二二四 二五六)

近代日本美術史・再読 第2部

1/27まで

神奈川県立近代美術館(鎌倉市・〇四六七 二二五〇〇〇)

国宝鑑賞和上展

1/11～2/17

名古屋博物館(名古屋瑞穂区・〇五二 八五三 二六五五)

トライ・アート2002 ミライズム空間

1/20まで

富山県立近代美術館(富山市・〇七六 四二二 七二二)

ブラハからの美のたより

―里帰りの日本美術―

1/12～2/17

京都国立博物館(京都市東山区・〇七五 五四二 一一五)

聖徳太子展

1/8～2/11

大阪市立美術館(大阪市天王寺区・〇六 六七七一 四八七四)

一月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

| 月 日 | 行 事 | 内 容 | 会 場 |
|---------|-------------|--|-----|
| 1/5(土) | 土曜講座 | 利家と末森の合戦 (末吉守人 普及課長) | 講義室 |
| 1/6(日) | 月例映画会 | ドラクワロワ ロマン主義の逆説 時代に遅れてきた青年(23分) | ホール |
| 1/12(土) | 土曜講座 | ドラクワロワ ロマン主義の逆説 魂の貴族性について(23分) (二木伸一郎 学芸主査) | 講義室 |
| 1/13(日) | 講演会 | 洋画家列伝 11 高光一也 (西田孝司 学芸主査) | ホール |
| 1/19(土) | 土曜講座 | 「親父と私」 不思議な絵の世界 4 講師 高光一氏(陶芸家) | 講義室 |
| 1/20(日) | 月例映画会 | コロ・ミレー・クールベ 画家はなぜ風景を描くのか(23分) | ホール |
| 1/26(土) | 土曜講座 | コロ・ミレー・クールベ 彼らは究極には人間を描いた(23分) (南 俊英 学芸第一課長) | 講義室 |
| 1/27(日) | ミュージアムコンサート | 日本の金工 11 彫金 (南 俊英 学芸第一課長) | ホール |

今月の全館休館日は一月一日(火)～三日(木)、二十八日(月)、二十九日(火)です。

(美術館の本)

前田育徳会展示室 開館記念名宝展 税込定価(円) 一、五〇〇

加賀文化の華 前田綱紀展 二、〇〇〇

前田育徳会の名宝 百丁比照 一、五〇〇

加賀藩一代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展 二、三〇〇

前田利為と尊経閣文庫 二、〇〇〇

前田利家後400年 利家がきた 桃山時代の美術 二、五〇〇

ミュージアムショップで販売中!!

郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。

(076 231 7580)

次回の展覧会

特集 ―幽玄の美― 能面と能装束 (前田育徳会展示室)

(第2展示室) 1月30日(水)～2月20日(水)

特 集 明治の工芸 (第5展示室)

1月30日(水)～2月20日(水)

特 集 明治の工芸 (第5展示室)

1月30日(水)～2月20日(水)



七人猩々図

狩野常信

宝永元～6年(1704～09)

寛永13年(1636)～正徳3年(1713) 縦35.6 横57.2(cm)

猩々とは、中国での想像上の怪物です。声は子供の如く、その毛は長く朱紅色で、面貌人に類し、よく人語を解し、酒を好むといわれています。それゆえ日本ではよく酒を好む人をさしたり、能の演目「猩々」などから、親しみのある言葉となっています。

この図は、降りしきる雪の中を朱塗りの大盃を逆さにし、あたかも御輿を担ぐかのように持ち上げ、酒に酔った赤ら顔で雪中を駆けめぐる七人の猩々の喜々とした様子を描いたものです。なかでも一人は、大盃の外で、柄杓を肩にかつぎまるで音頭をとっているかのよう、全体に動きのある生き生きとした画面は、探幽以来の狩野派伝統の様々な様式を集大成し、さらに時代相にあつた作風を展開した、常信の特色を遺憾なく發揮した優品となっています。

筆者の狩野常信(一六三六～一七一三)は、狩野尚信(一六〇七～一五〇)の長子で通称は右近。また養父古川叟と号しました。父の没後、叔父探幽の薫陶を受け、慶安三年(一六五〇)には父の跡をついで幕府奥絵師となり木挽町狩野を確立します。宝永元年(一七〇四)には法眼、六年(一七〇九)には法印に叙せられて探幽亡き後、江戸狩野の総帥として活躍、狩野家の画界における世襲的地位を確固たるものとししました。画面右下に「法眼古川叟筆」と書かれていることから、この作品の制作は、宝永元年から六年の法眼時代に行われたことがわかります。

ミュージアムショップ通信

深々と降り積む雪。この世のけがれをそっと包み込んで、すべてを清浄なものへと変えるかのよう……。新世紀狂騒の昨年とはうって変わり、静かな年越しです。

さて「没後15年 高光一也展」が開幕する四日は、高光氏の誕生日でもあります。石川の洋画壇、そして美術界をリードした高光一也氏。その作品はといえば、明るい色彩で健康的な女性像、そんなイメージがまず思い浮かぶでしょうか。高光芸術に魅せられて、展示替えのたびに足を運ばれるファンの方は、今なお少なくないですね。

ショップには高光氏関連の図録が三種類並びます。『石川県立美術館所蔵 高光一也作品集』(昭和六十二年)は、新館開館の時に寄贈された作品百余点の全貌を、初めて公開する展覧会を記念したものです。そして『没後10年 高光一也展』(平成八年)は、寄贈作品を中心に、他の代表作品や当時未公開だった作品を収めています。高光氏単独のものではないですが、『四巨匠 中川一政・宮本三郎・高光一也・南政善の世界』(二〇〇〇年・平成六年)もあります。それぞれに違った趣があつて、結構楽しめます。お帰りの前に、ぜひのぞいてみて下さいね。今年もよろしくお願いたします。



『高光一也作品集』
(右・1,900円)
『没後10年 高光一也展』
(左・2,000円)

休館日

一月二日(火)・三日(木)・二十八日(月)・二十九日(火)

石川県立美術館だより

第二一九号 平成十四年一月一日発行

〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三三)七五八〇
FAX 〇七六(二二四)九五五〇